



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

兵庫県 神戸市立高取台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。



■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック/リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年1組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・7人制ラグビーフットボール競技で、リオデジャネイロ2016大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」「自分のベストを尽くす」「昨日の自分より今日の自分」「高みを求めて頑張る」、フレンドシップ：「友情」「協力し助け合う」、リスペクト：「敬意」「尊重」「敵、味方関係なく感謝の気持ちを伝える」と説明し、この3つの価値について皆に体感してもらいたいと授業の目的を確認。  
 ・ラグビーボールの特徴を紹介し、タグラグビーはタックルの代わりにタグを使用するため、是非楽しんで取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動は、「コーディネーショントレーニング」、ラグビーボールを使用した「パス練習」、「タグ取り練習」、「タグラグビー1対1」を実施。  
 ・主運動は、「タグラグビー」を実施(1試合2分間×5試合)。ラグビーのルール同様、ボールを前にパスしたり、落としてはいけない。ボールを持ってゴールラインを越えたらトライ(得点)とし、相手のタグを取ることでタックルとする。タグを取る際は、大きな声で「タグ」と言う。



・運動の時間を振り返り、白熱した試合が多く、短時間で皆がタグラグビーのルールを理解できていた。ボールをしっかりとなぎ、トライできたことは素晴らしい。オリンピックバリューを感じた瞬間が沢山あったと思う。座学では、運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて、更に深掘していきたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)【出場オリンピック/リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・ラグビーフットボール競技や、自身の経験を通して、オリンピックバリューの3つの価値について考える時間にしたと授業の目的を確認。  
 ・金メダル獲得を目指して出場したオリンピックだったが、10位の結果となり、悔しい思いを消化できずにいた時、「オリンピックに出場したからオリンピック人ではなく、オリンピックに出場していなくてもオリンピックになれる」という言葉に出会ったことで、次に進む勇気が出た。何度怪我をしても夢を諦めず、辛いリハビリや厳しい練習に励んだこと等、結果ではなく、出場するまでの道のりに意味があったのだと、その言葉で気付くことができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：これまでにオリンピックバリューを感じた出来事はどんなことですか。また、これからオリンピックバリューをどのように活かしたいですか。  
 発表：エクセレンス：「かるた大会で1人1人が一生懸命頑張り優勝できた」「もっと成長できるよう地道にコツコツと努力することが大切」等  
 フレンドシップ：「かるた大会で仲間と協力し絆を深めることができた」「部活動で仲間と声を掛け合う」「仲間のミスを責めない」等  
 リスペクト：「自分を周りで支えてくれている人に感謝の気持ちを忘れない」「かるた大会で始まりと終わりにきちんと挨拶、礼をした」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは、スポーツだけではなく、日常生活の中に沢山あることを知ってもらえたと思う。「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」が日頃から体現できる人こそ、オリンピックであり、その真のオリンピックが増えることで、世界平和につながる。是非、皆には本当の意味でのオリンピックになってほしいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ソフトボール競技で北京2008大会に出場したと自己紹介。2時間を通してオリンピックをより身近に感じてほしい。そのために、運動の時間は「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つを約束事とし、楽しみながら、全力で取り組んほしいと授業の目的を伝える。実際にオリンピックで使用したボールで代表生徒数名とキャッチボールを実施。その後、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動は、ストレッチを行った後、「体を使ったじゃんけん」、「ボールを使った運動」を実施。  
 ・主運動は、「ボールパスリレー」を実施(全4回)。チーム内で2人組になり、バレーボールを対面でパスをしながら走り、折り返し地点のコーンを回って戻る。ボールをつなぎ、全員がゴールした速さを競う。3、4回目はボールを転がしながらサイドステップで走るルールに変更。



・運動の時間を振り返り、ボールパスリレーでは運動の得意、不得意や、体格差のある男女のペアでも、パスを優しく出す工夫ができていた。一生懸命取り組むあまりミスしてしまった仲間に対して、ネガティブな言葉ではなく、「大丈夫」、「頑張れ」等の声掛けができていた。仲間への思いやりを感じられる瞬間が多く、大変素晴らしかった。座学の時間は、オリンピック出場までの道のりで、自身が感じたことや学んだことを踏まえ、オリンピックバリューについて、より深く考える時間にしたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・北京2008大会に出場するまでの経験や、オリンピックを通して学んだことを伝え、オリンピックバリューについて学んでもらいたいと授業の目的を確認。アテネ2004大会に選ばれなかった際、引退を考えるほど落ち込んだが、周囲の方々の応援のおかげで、諦めずに、更に厳しいトレーニングに励んだ結果、北京大会へ出場することができた。金メダルを獲得したことは大きな成果だが、夢を諦めず、もう1度踏ん張って日々の努力を続けられたこと、その出場までの道のりが自身にとって1番大切な経験であった。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：普段の生活の中で、オリンピックバリューに当てはまると思うことを考えよう。

発表：エクセレンス：「継続して日記をつける」「何事も悔いの残らないように取り組む」「体育大会のリレーで優勝することができた」等

フレンドシップ：「行事等でクラスの良い雰囲気を作る」「提出物が遅れないよう皆に声を掛ける」「負けていても応援する」等

リスペクト：「家族への感謝の気持ち」「校則を守る」「サッカーで相手ボールが外に転がった時でも、自らボールを取りに向かう」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは皆の生活の全てにつながる。これからの人生の中で、上手くいくことだけでなく、悔しい思いをすることも多くあると思う。自分には無理だと諦めるのではなく、今日学んだことを思い出し、もうひと踏ん張りすることができれば、その先の未来は変わっていく。今日感じたことを大切に、より良い生活を送ってほしいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ソフトボール競技で北京2008大会に出場したと自己紹介。2時間を通してオリンピックをより身近に感じてほしい。オリンピックバリューを説明し、運動の時間は「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つを約束事とし、1人1人が自分の出せる精一杯の力を出し、楽しみながら取り組んほしいと授業の目的を伝える。実際にオリンピックで使用したボールで代表生徒数名とキャッチボールを実施。その後、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動は、ストレッチをした後、「体を使ったじゃんけん」、「ボールを使った運動」を実施。  
 ・主運動は、「ボールパスリレー」を実施(全4回)。チーム内で2人組になり、バレーボールを対面でパスをしながら走り、折り返し地点のコーンを回って戻る。次の人にボールを渡し、全員がゴールできた速さを競う。3、4回目はサイドステップで走りながらボールを転がすルールに変更。



・運動の時間を振り返り、ボールパスリレーの作戦タイムでは、各班共に、より良い結果を目指し、具体的にどのようにすればよいかを考え、多くの意見を出し合うことができていた。各班が均衡した結果になったのは、皆がルールを守り、全力で取り組んだ証拠であり、大変素晴らしい。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの道のりを感じたことや、学んだことを踏まえ、オリンピックバリューについて、深く考える時間にしたいと伝え、授業終了。



■ **オリンピック**：馬淵 智子 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年2月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、北京2008大会に出場するまでの経験や、オリンピックを通して得たことを伝え、オリンピックバリューについて学んでほしいと授業の目的を確認。大会時の写真を見ながら、北京2008大会での表彰式後、日本代表チームに負けたアメリカ代表チームが、ソフトボールのオリンピック競技への復活を一緒に訴えようと声を掛けてくれ、一緒に撮った写真だと説明。アメリカ代表チームは、金メダルを獲れなかった悔しい思いもあったはずだが、これからの競技の普及だけでなく、次世代の子供達の夢のためにとった行動にとても感動し、尊敬できるチームだと改めて感じた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：普段の生活の中で、オリンピックバリューに当てはまると思うことを考えよう。

発表：エクセレンス：「部活動等で大会に向けて練習に励む」「試合でベストを尽くす」「1人1人が試合での優勝を目指す」等

フレンドシップ：「チームメイトと協力する」「試合や体育祭等で皆で話し合う」「郊外学習で皆で協力する」「部活動等でハイタッチをする」等

リスペクト：「礼儀正しくする」「家族や仲間、顧問の先生、先輩やライバル等に対する挨拶」「学校生活や日常のルールや法律を守る」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは決して特別なことではなく、日常生活の中に存在している。また、何事も一生懸命取り組むことで、その姿を見た仲間との友情やチームワークが生じる。皆1人1人が意識することで日々の生活が変わってくる。今日学んだことを忘れずに、クラスの皆で協力し、支え合い、相手を尊重することで、毎日の学校生活がより良いものになることを願っていると伝え、授業終了。



■集合写真

・2年1組



・2年2組





■ 集合写真

・2年3組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



■ 修了証贈呈

